兵 庫 医 療 大 学
社学連携推進機構

2017年度報告書

兵庫医療大学
社学連携推進機構

はじめに

平成 29 年度に開学 10 周年を迎えた兵庫医療大学は、新たな 10 年を見据えて “HUHS VISION 20” を策定しました。社学連携活動については、ビジョン「地域と共に学ぶ大学」の下、２つのミッション「①ヘルスサイエンスを基盤とする心と体の健康支援について地域と連携協働するとともに、地域企業・団体との共同研究としてヘルスサイエンスイノベーションに取り組む；②学生を参画メンバーとすることで、社会的視点を育む」を掲げています。

兵庫医療大学・社学連携推進機構が主体として取り組んできた活動、制度づくり等が評価され、平成 27 年度から私立大学等改革総合支援事業タイプ２「地域発展」とタイプ３「産業界・他大学との連携」の両方に３年連続で採択されました。しかし、本機構が裏表紙に記した「社学連携ポリシー」を体し、“HUHS VISION 20” の下、その活動をより充実していくためには、やはり自己点検・評価つまり PDCA サイクルの実践が不可欠です。

本報告書には、PDCA サイクルの一環として、平成 29 年度の社学連携推進機構の活動状況ならびに平成 30 年度に向けた活動目標を取りまとめました。本学のアドバイザリーボード、連携・協力機関、そして地域の皆様には、「地域と共に学ぶ大学」として兵庫医療大学が発展していくために、是非、ご一読の上、忌憚のないご助言・ご意見を賜れれば幸いです。

2017年度の活動報告

地域創生を目指して

平成 28 年度に、薬学部・教員チーム「薬活オウルズ」(代表・前田初男、青木俊二、戴　毅、岩岡恵実子、石崎真紀子）の「もっと兵庫の薬草を知ろう・広めよう・味わおうプロジェクト」が、兵庫県「大学等との連携による地域創生拠点形成支援事業」に採択されました。同プロジェクトでは、拠点を丹波市立薬草薬樹公園内に開設し、平成 29 年度から本格的に活動を開始しています。

昨年度に引き続き、30 名の学生達とともに「さんなん和田 漢方の里まつり」の運営を支援したり、「薬草を食べよう！」などのイベントを薬草薬樹公園や、しあわせの村において開催したりしただけでなく、同プロジェクトの連携団体であるふるさと和田振興会、株式会社ウエルネス・サプライ、しあわせの村の協力の下、新商品「とうき葉うどん」「とうき葉ぱん」「とうき葉塩」を共同開発しました。

また、丹波市山南町和田小学校の５・６年生（63 名）を対象として本学にて薬草特別講義・実習も開講しました。これらの活動を通して、薬草産地・丹波市山南町における地域活性

化に多少なりとも貢献できたと考えています。

地域医療を担う人材の育成

昨年と同様に、ポーアイ・コモンズでは「兵庫医療大生による健康チェック体験」を、本学主催の公開講座に併設開催し、参加者を対象として実施しました。また、KOBE エイズフェスタ 2017、ハートフルフェスタ 2017 においてもサービス･ラーニングとして学生達が参加し、健康測定を支援しました。

一方、篠山コモンズでは篠山市主催の健康教室「お試しクラブ～いきいきデカボー体操～」「健康相談」などを支援しました。毎回多くの地域住民が参加し、学生達と一緒に楽しんで健康づくりに取り組んでいただきました。

なお、表 1 は平成 29 年度サービス・ラーニングの実施実績です。昨年度の実績（8 回開催；学生参加数 29 名）に比べて、開催数・学生参加数が大幅に伸びました。

表 1. 平成 29 年度 兵庫医療大学ポーアイ・コモンズ／篠山コモンズにおけるサービス・ラーニングの実施実績

日 時	コモンズ	参加学生数
7 月 8 日（土）	ポーアイ	11
9 月 15 日（金）	篠山	4
11 月 25 日（土）	ポーアイ	6
12 月 3 日（日）	ポーアイ	7
2 月 28 日（水）	篠山	2
3 月 2 日（金）	篠山	3
3 月 9 日（金）	篠山	2
3 月 16 日（金）	篠山	4
3 月 18 日（日）	篠山	4
3 月 21 日（祝）	篠山	2
3 月 30 日（金）	篠山	3
合計	11 回	48 名

共同研究・受託研究の推進

表 2 に平成 29 年度に実施した共同研究・受託研究をまとめました。平成 28 年度からの継続研究が 11 件、平成 29 年度から開始した新規の共同研究 2 件です。最近の傾向としては、医療機器や介護用品に関する共同研究･受託研究が増え、医療総合大学である本学の研究活動に注目が集まりつつあると感じています。

なお、他の共同研究・受託研究については、連携先機関等との守秘契約等のため、取り組んでいる共同・受託研究の課題名、テーマ等は記載していません。どうか、ご理解の上、ご容赦いただければ幸いでございます。

表 2. 平成 29 年度 共同・受託研究一覧

	共同・受託研究機関	学内担当者 *
平成28年度から継続	国立研究開発法人 理化学研究所（共同研究）	薬・教授 戴 毅
	パナソニック株式会社 アプライアンス社 （共同研究）	リハ・准教授 坂口 顯
	国立大学法人 浜松医科大学 （共同研究・課題１）	薬・講師 中野博明
	国立大学法人 浜松医科大学 （共同研究・課題２）	薬・講師 中野 博明
	株式会社 西山酒造場 （共同研究）	薬・教授 前田 初男
	摂南大学 （共同研究）	薬・講師 清水 忠
	クオール株式会社 （共同研究）	薬・教授 天野 学
	株式会社 阪神調剤薬局 （共同研究）	薬・教授 天野 学
	ユニ・チャーム株式会社 （共同研究）	リハ・教授 川口 浩太郎
	株式会社ビーテンド （受託研究）	リハ・教授 川口 浩太郎
	千寿製薬株式会社 （共同研究）	薬・教授 田中 明人
新規	株式会社 MORESCO （共同研究）	薬・教授 田中 明人
	株式会社シスメックス （共同研究）	薬・教授 田中 明人

* 薬：薬学部、リハ：リハビリテーション学部、共セ：共通教育センター.

「ひとづくり」支援

平成 29 年度も、生涯学習やリカレント教育などの学びの場を地域住民ならびに医療専門職者に提供しました。

薬学研究科「臨床薬剤師生涯教育ステーション」は、薬剤師生涯学習セミナーとして「薬剤師が知っておくといい漢方・生薬の話」（薬学部・講師・岩岡 恵実子）を平成 29 年 8 月 26 日に、グランフロント大阪北館ナレッジキャピタル・アクティブスタジオにて開催しました。本学の卒業生や地域の薬剤師の先生方に参加いただきました。

一方、看護学研究科が担当している「シームレス看護教育ステーション」では、文部科学省認定「職業実践力育成プログラム（Brush-up Program: BP)」として「地域在宅看護実践力育成プログラム」を開講し、13 名の修了者に対して履修証明書を発行しました。また、医療科学研究科が担当している「リハスタッフ臨床教育ステーション」では、BP「PT・OT 臨床力ステップアッププログラム」を開講し、7 名の修了者に対して履修証明書を発行しました。

平成 30 年度は「在宅看護実践力育成プログラム」を 20 名が、「PT・OT 臨床力ステップアッププログラム」を 6 名が受講する予定です。表 3 には、平成 28 年度からの上記 BP の実績をまとめました。

表 3. 年度別 BP 受講者・修了者数

年度	地域在宅看護実践力養成プログラム	
	受講生	修了生
2016	18	14
2017	12	13
2018	20	
	PT・OT ステップアッププログラム	
2016	14	13
2017	7	7
2018	6	
総数	77	47

その他、本機構が主催した主だった講演会、

セミナー等を表 4 に示します。昨年度の実績（38 回）を上回る 42 回の講演会、セミナー等を開催しました。本学の規模から考えると、驚異的な数字でしょう。

表 4. 平成 29 年度に実施した講演会、セミナー等

開催日	講演会、セミナー等の演題 （担当者 *）
6 月 3 日（土）	身近な薬草のお話 （薬・岩岡 美恵子）
7 月 15 日（土） 11 月 8 日（水） 12 月 9 日（土） 3 月 10 日（土）	～クリニカル・カフェ～ 「当たり前は当たり前か」 「自立していることと 依存すること」 「自己決定」 「お世話とお節介」 （共セ・紀平 知樹、常見 幸）
6 月 22 日（木）	がんの免疫療法 （阪大院医･臨床主要免疫学特任教授・和田 尚）
8 月 21 日（月） 9 月 4 日（月） 9 月 11 日（月） 9 月 24 日（日）	ナイチンゲールの 「看護覚え書」を読む （看・魚崎 須美）
7 月 14 日（金）	宇宙ジェット （共セ・加藤 精一）
7 月 18 日（火） 7 月 19 日（水）	体力測定会 （看・土井 有羽子）
8 月 26 日（土）	薬剤師が知っておくと いい漢方・生薬の話 （薬・岩岡 恵実子）
8 月 27 日（日）	ワクワク体験！ ひかりの世界へようこそ （兵医大･福島 和明､江嵜 啓祥）
9 月 13 日（水）	質的研究から量的研究への発展 （ﾌｨﾝﾗﾝﾄﾞｵｳﾙ大・Helvi Kyngäs）
9 月 16 日（土）	遺伝リテラシーって何？ （看・片田 千尋）
10 月 4 日（水）	全ての疲労は脳が原因 （大阪市大院・医学研究科・疲労医学特任教授・梶本 修身）
10 月 21 日（土） 10 月 28 日（土） 11 月 3 日（金）	がん患者・家族のグループ サポートプログラム 「おしゃべりカフェ」 （看・田中 登美）
10 月 14 日（土）	過程で役立つ看護技術 （基盤看護学教員）
10 月 28 日（土）	あなたも平和のねこと一緒に 健康と平和について感じたり、 考えたりしませんか？ （薬・桂木 聡子）
10 月 28 日（土）	みんなで支え合う地域づくり （看・土井 有羽子）
10 月 28 日（土） 11 月 23 日（祝） 12 月 16 日（土）	リラクゼーションを取り入れた 健やかな生活を目指して （看・鈴木 みゆき、荻野 待子、増田 富美子、竹田 千佐子）
11 月 25 日（土）	運動ができる子に育つ 親子トレーニング講座 （リハ・坂口 顕）
11 月 26 日（日）	エビデンスに基づいた 処方提案に挑戦しよう！ （薬・清水 忠）
12 月 12 日（火） 12 月 16 日（土）	嚥下機能低下予防講座 （薬・桂木 聡子）
12 月 12 日（火）	エイズと共に生きるちから！ （ｼﾞｮｾﾞ・ｱﾗｳｰｼﾞｮ・ﾌｨｰﾘｮ）
12 月 13 日（水） 12 月 21 日（木）	入浴について正しい知識を学ぶ プログラム （共セ・常見 幸）
12 月 16 日（土）	薬膳に使う身近な食材の効能 （本草薬膳学院・学院長・辰巳 洋） 健康体操 （兵庫医科大学中医薬孔子学院・学院長・梁 永宣）
12 月 16 日（土）	視覚障害のある人への支援法を 学ぼう （薬・石崎 真紀子）
2 月 15 日（木） 2 月 22 日（木） 3 月 1 日（木） 3 月 8 日（木） 3 月 16 日（金）	介護予防推進サポーター 養成プロジェクト （リハ・永井 宏達）
3 月 11 日（日）	人生の終盤を豊かにするために （島田病院・理事長・島田 永和）

* 薬：薬学部、看：看護学部、リハ：リハビリテーション学部、共セ：共通教育センター.

開催数だけでなく、その質も、本学教員の熱意と行動力により、年々高められていると自負しています。たとえば、2016 年度から地域交流プロジェクトとして開講している「介護予防

推進サポーター養成プロジェクト」では、“地域住民の、地域住民による、地域住民のための健康づくり”を実践しています。すなわち、神戸市中央区健康福祉課との連携の下、本学の教員・学生だけでなく、同プロジェクトを修了した地域住民の皆さんが、「あんしんすこやかセンター」などが主催する健康教室の運営を支援しています。

「ものづくり」支援

前述したように、「薬活オウルズ」が平成29年1月から取り組んでいる「もっと兵庫の薬草を知ろう・広めよう・味わおうプロジェクト」では、江戸時代から薬草産地として知られる丹波市山南町における薬草・当帰の葉を活用した商品開発を支援しています。学生たちを交え新商品の試食会等を繰返し、これまでに「とうき葉うどん」「とうき葉パン」「とうき葉塩」が開発されました。また、同プロジェクトでは、神戸シルバーカレッジの卒業生をメンバーとするNPO法人「社会還元グループ　わ」の協力の下、既に市販されている当帰茶の身体機能改善効果を平成30年1月から3ヶ月に渡り検証しています。この検証により、とうき葉商品の販促ならびに開発を支援できると期待しています。

さらに、同プロジェクトでは、丹波市山南町のシンボルで生薬にも活用されている橘の果実からエッセンシャルオイルを作り、その成分分析を「私立大学等改革総合支援事業」により導入した GC/MS を用いて行なっています。この研究では、「ものづくり」支援を目的とするプロジェクト・ベイスド・ラーニング（PBL）を薬学部生が実践しています。

「まちづくり」支援

今年度も、本学公認サークル「ポーアイ多職種連携学生ネットワーク（ポーアイネット）」の学生達がボランティアとしてドナルド・マクドナルド・ハウス神戸の運営を支援しました。

一方、上述したように「介護予防推進サポーター養成プロジェクト」が取り組む“地域住民の、地域住民による、地域住民のための健康づくり”は、新しい形の「まちづくり」へと展開しつつあります。本学はこの取り組みを全学的に支援するため、2018年4月から「兵庫医療大学健康づくりサポーターバンク事業」を開始し、同養成プロジェクトを修了した地域住民が「健康づくりサポーター」として地域における健康づくり支援活動に取り組みやすい環境を整備してまいります。

2018年度の活動目標

地域創生をめざして

今年度は、薬学部「薬活オウルズ」の地域創生活動の成果として3種類の「とうき葉」商品が開発されました。来年度はもっと丹波市薬草生産者部会の皆様に喜んでいただけるように、本機構は「薬活オウルズ」の活動を支援し、第四、第五の商品が開発されることを期待しています。

地域医療を担う人材の育成

昨年度に立てた平成29年度の到達目標「ポーアイ・コモンズと篠山コモンズの活用回数を3回ずつ以上、それぞれの活動への学生参加数を平均3名以上」を達成し、延べ48名の学生達がサービス・ラーニングを実践しました。来年度は「延べ50名以上の学生が参加する」ことを目標として、両コモンズでの活動に取り組

んでまいります。

共同研究・受託研究の推進

昨年度に立てた平成 29 年度の目標は「教育・研究環境整備方針の提言と、共同研究・受託研究の実績評価に関する枠組みづくり」でした。残念ながら、これらについては全く取り組めませんでしたが、全学的な教員活動評価制度を平成 30 年度から実施する体制を構築できました。本制度では、年度始めに教育、研究、そして社会貢献活動について計画・成果指標を立案し、次年度始めに実施概要と自己点検評価を報告します。提出される教員活動計画報告書を以って、共同研究・受託研究の評価も実施できると考えています。

来年度は、積み残した「教育・研究環境整備方針の提言」と、「5 つ以上の新規の共同研究・受託研究を開始する」を目標に本機構は活動してまいります。

「ひとづくり」支援

平成 29 年度も、講演会、セミナー等を通して、多くの地域の住民・医療専門職者に学びの場を提供できました。2 年前からの取り組んでいる BP も順調に運営できています。そして、平成 29 年度の目標「アドバイザリーボードを設置するだけでなく、外部有識者の助言を仰ぐ場を持つこと」も実現できました。兵庫県薬剤師会、神戸市薬剤師会、兵庫県看護協会、(株) セラピット、ファルメディコ（株）、兵庫県企画県民局大学課から有識者をお招きし、平成 29 年 6 月 2 日（金）にアドバイザリーボード会議を開催しました。2 時間弱の会議でしたが、本学の三ポリシー、本機構の活動、研究ブランディング事業などについて有意義な意見交換をさせていただきました。

恒例となっている講演会、セミナーなどを 30 回以上開催することとともに、平成 30 年 4 月から取り組むサポーターバンク事業への登録者 20 名以上、その登録者が神戸市中央区内の「あんしんすこやかセンター」等が実施する健康教室への運営支援の参加回数 5 回以上を、来年度の目標に設定します。

「ものづくり」支援

平成 29 年度の目標として、少なくとも一つの「ものづくり」の実現を掲げていましたが、3 種類の「とうき葉」商品を開発し、その目標を達成することができました。来年度も、少なくとも一つの「ものづくり」の実現と、「ものづくり」を支援する科学的根拠一つの提示を目標に掲げ、全学的な活動に取り組みます。

「まちづくり」支援

平成 29 年度の目標として、ポートアイランド「医療のまちづくり」だけでなく、丹波市における「まちづくり」も積極的に支援することを掲げていました。これらの目標に関しては、道半ばの感が否めませんが、「まちづくり」を実践する土台を固めつつあります。数年後には「まちづくり」を実践できたと言えるように、来年度以降も、ポートアイランドと丹波市における「まちづくり」を支援していく所存です。

社学連携推進機構　2017年度報告書

発行日　平成30年5月
発　行　兵庫医療大学
社学連携推進機構
〒650-8501　兵庫県神戸市中央区港島1-3-6
TEL　078-304-3021

【兵庫医療大学 社学連携ポリシー】

①地域創生をめざして

兵庫県は、他の地方自治体と同様に、少子高齢化、転出超過などの問題に直面しています。これらの問題点を解決するため、兵庫医療大学は、兵庫県ならびに県内の市町村と協働し、本学の知と経験を地域創生のために積極的に活用していきます。

②地域医療を担う人材の育成

超高齢社会に突入した日本では、今後さらに、地域医療の充実が求められます。兵庫医療大学は、地域社会から地域社会とともに学ぶ双方向型教育研究を実践し、高度医療専門職者として地域に根ざして地域医療を担う人材の育成に取り組みます。

③共同研究・受託研究の推進

科学技術創造立国を目指す日本において、大学の研究活動に大きな期待が寄せられています。兵庫医療大学は、本学の知的財産などの様々な研究成果を活用する共同研究・受託研究を推進し、大学の知と経験の社会還元に積極的に取り組んでいきます。

④「ひとづくり」支援

「21 世紀兵庫長期ビジョン」において兵庫県は、県民主役・地域主導による一人一人が元気な成熟社会を目指しています。兵庫医療大学は、この兵庫県の取組みを支援するため、高大連携、生涯学習、リカレント教育などの学びの場を積極的に提供し、地域社会における「ひとづくり」に、持続的に取り組んでいきます。

⑤「ものづくり」支援

医療や健康づくりをキーワードとして「ものづくり」に取り組んでいる在兵庫企業は、独自技術の未活用、科学的根拠の不足など、様々な課題を抱えています。兵庫医療大学は、本学の知と経験を活用することにより、それらの企業が直面する課題の解決を目指して協働し、地域社会における産業イノベーションを積極的に支援します。

⑥「まちづくり」支援

「ひとづくり」と「ものづくり」だけでなく、「まちづくり」も大学に求められている社会貢献の一つです。兵庫医療大学は、兵庫県、県下の市町村、そして地域社会と協働しつつ、教職員だけでなく、学生達の地域活動への参加を促進し、大学の知と経験を活用した「まちづくり」に取り組んでいきます。